

# NEWSLETTER No. 26



**CWS  
JAPAN**

Church World Service  
2018年9月号

7月の西日本豪雨、9月6日に発生した北海道胆振東部地震によって被災された皆様にお見舞い申し上げます。CWS Japanでは防災・減災を団体のビジョンとして掲げており、今後も国内外で自然災害に襲われやすい地域において、より一層住民の方々のレジリエンスを高める活動を行ってまいります。

## ミャンマー エーヤワディーデルタ地域水害対策ニーズ調査実施

CWS Japanでは、2016年より3年間、味の素ファンデーションから助成を受け、CWS Myanmarとの連携により、エーヤワディーデルタに位置するMaubin Townshipの15村で、5歳未満児の栄養改善事業を行っています。その事業対象地では、2015年に洪水が発生し、CWS Myanmarが被災者への緊急支援を行いました。その後、被災世帯の幼児に栄養不良の傾向が見られたことから、上記の事業が開始されました。同対象地では、それ以降も毎年のように、水害が発生するとともにエーヤワディー川の河岸浸食が深刻化していき、これまで多くの住宅と農地が流され、堤防も水没しました。水害で農地と住居を失った住民は、移住を続け、生活再建を繰り返すことで貧困の悪循環に陥っています。土地を持たない彼らは、乾期の間、日雇い農業労働者として賃金を得て生計を立てているのですが、その賃金は仕事がない雨期の間たった借金の返済に充てられてしまいます。水害が続く限り、彼らの生活は安定することはなく、借金しながらその日暮らしを送っている彼らに意識啓発や教育プログラムを提供することにギャップを感じ、この問題に取り組むことを考え始めたのは昨年11月のことでした。

少しでも河岸浸食や洪水の被害を抑える方策、根本的な解決はできなくても、軽減策を考えたいと思いました。日本だったら、即大掛かりな公共工事が入るところですが、ミャンマー政府にその資金はなく、エーヤワディーデルタで洪水の被害に遭っている地域はMaubin Townshipだけではなく、上流の方がより被害が深刻であるという話を聞きました。それから半

年後、河岸浸食と洪水対策のための新規事業のためのニーズ調査を8月の雨期に計画しました。調査にかかる費用は、外務省のNGO補助金に応募したところ、助成が決まり旅費を負担してもらうことになりました。

今回調査対象にしたのは上記15対象地の中から、最も河岸浸食が進み、洪水に遭うリスクの高い4村を選び、それぞれ既に組織化された防災委員をはじめ、母親グループや自治会リーダー達のグループのメンバーに集まってもらいました。幸い、これら4村では、CWS Myanmarのリーダーシップの下、防災委員会によって、既に地域防災計画づくりに必要な村内のリソース（資源）や危険箇所を示す地図、村の災害履歴、防災に関わる組織との関係図やアクションプランにいたるまでドラフトができていました。そこで、深刻化する河岸浸食という問題を取り上げ、その「原因」とそれによって起こる「結果」について問いかけながら、問題分析を一緒に行いました。それによって、彼らがその災害をどう理解しているのかを知ることができました。彼らとの話し合いの中で、エーヤワディー川の上流で森林伐採が行われていることで、土壌侵食が起これ、その土砂が川底に堆積していることから、この10年間で川の流れが変化していると言うのです。そしてまた、降雨パターンも変化したと。



地域内外の防災に関わる団体について地域住民から説明を受ける



強い川の流れによって翌日流された家

今日、国内外において異常気象による自然災害が後を絶ちません。日本では、洪水発生時の逃げ遅れによって命を落とす人々がいる一方で、ミャンマーでは、毎年のように洪水が発生していますが、生命は守られています。話を聞いてみると、彼らは避難すべき時を良く分かっているのと、病人や高齢者がいる世帯は頼まなくても必ず近所の人々が助けに来る助け合いの習慣が根付いているそうです。

先日、NHKで放映していた専門家による討論の中で、「日本の防災は行政主体でやってきたために、日本人を災害過保護にさせた」という発言を聞きました。ミャンマーではその逆で、行政に頼れないからこそ自助・共助がしっかりできているのでしょうか。日本人が学ぶべきものがミャンマーにあるのではないかと考えさせられました。

(文：プログラムマネージャー 牧 由希子)

## アフガニスタン防災ファシリテーター研修

外務省NGO連携無償資金協力によるアフガニスタン「ナンガルハール県・ラグマン県コミュニティ防災力向上事業」も2年目に入っています。邦人の渡航が難しいアフガニスタンですので、技術供与の研修は日本やインドで行っておりますが、この度防災ファシリテーター研修を、事業パートナーである国土防災技術株式会社及びCommunity World Service Asiaと実施しました。

本研修では、各災害のメカニズムを分かりやすく図解化した副読本の紹介や、国土防災技術株式会社が開発されたEVAG（避難行動ゲーム）のアフガンバージョンの実施、日本の地区防災計画から学ぶアフガン版地区防災計画の策定計画づく

りなど、日本の防災の教訓を最大限活かした内容となっています。参加者はアフガニスタンのナンガルハール県・ラグマン県の政府関係者、コミュニティ代表、NGO関係者などから成り立つ本事業のハザードマップチームです。

前回の本邦研修後、各対象地域において災害履歴の確認、ハザードマップの作成、警戒区域の設定、避難場所の特定及び周知などを行っておりますが、洪水や土砂災害の危険性がある区域に数千人もの人たちが住んでいる現状も共有されました。災害が多発する地区は比較的時代も安く、災害履歴等を開示せずに帰還民・国内避難民へ土地を売ってしまう人たちもいるそうです。能動的な災害リスクの把握、安全な避難場所の設定、具体的な避難行動の実施などが命を守る上で重要です。守れる命を守るために、引き続きCWS Japanでは日本の防災技術・経験の共有を進めていきます。

(文：事務局長 小美野 剛)



### 「グローバルフェスタJAPAN2018」9/29-30 アフガニスタン・ステージにお越し下さい！

CWS Japanが参加するジャパン・プラットフォームのアフガニスタン・ワーキンググループがスペシャルステージに9月30日(日)14:15登場します。

日頃なかなか知る機会のないアフガニスタンを身近に感じてもらうために、当日はクイズ、伝統的な踊り「アタン」のレクチャーも行いますので皆さんにもぜひ一緒に踊っていただき、五感を使って楽しみながらアフガニスタンのことを知っていただければ嬉しいです。

ぜひ、皆さまお誘いあわせのうえ、グローバルフェスタ2018へお越しください！

「グローバルフェスタJAPAN2018」の公式HPはこちら  
<http://gfjapan2018.jp/>

